

## 第65回東日本実業団陸上競技選手権大会

### 【出場結果】

実施日 : 5月20日(土) 1500m 10000m

5月21日(日) 5000m

会場 : カンセキスタジアムとちぎ(栃木県総合運動公園陸上競技場)

出場者 : 親崎 達朗 渡辺 瑠偉 小林 航央 関口 大樹

田中 龍誠 坪井 響己

出場種目・出場者・リザルト

氏名	小林	坪井	渡辺	関口	田中	親崎	親崎
種目	1500m	10000m	5000m	5000m	5000m	5000m	5000m
組	4組	1組	1組	1組	1組	2組	2組
タイム	3'46"02	30'23"26	16'08"29	15'02"35	15'08"69	14'36"31	14'44"34
順位	11/16位	13/20位	22/26位	15/26位	16/26位	14/30位	21/30位

### 【レポート】

今年度の東日本実業団陸上競技選手権大会は、昨年度開催された栃木国体のメインスタジアムとして新設された「カンセキスタジアムとちぎ」で開催されました。

東京オリンピックで使用された新国立競技場にも劣らない素晴らしい施設であり、選手達からは気持ちの高ぶりを感じる事が出来ました。

初日に開催された1500mでは日本選手権を直前に控える小林が出場しましたが、2週間前に行われた木南記念では3分52秒台の結果となり、目標記録とは大きな乖離があり悔しい結果となったため、悔しい気持ちを練習にぶつけて、今回のレースに備えてきました。



レース前に集中力を高める小林

前回のレースではスピードに対応しきれず、後方でレースとなりましたが、今回は積極的にレースを引っ張り、800m までは小林がレースをコントロールする勢いのある走りを見せてくれました。

勝負処となるラスト 1 週の鐘が鳴り、後方に位置していた選手達がスパートすると、小林も食らいつきましたが、ラスト 300m で身体が固まってしまい、最後のスパートに精彩を欠き 3 分 46 秒 02 でのゴールとなりました。

入賞を狙っていただけに、悔しい結果となりましたが、前回のレースより格段に調子を上げてきているので、日本選手権では決勝進出を狙って勝負して欲しいと思います。

10000m1 組目に出場した坪井は、序盤からハイペースで進む先頭集団に 3000m 迄は食らいつき、5000m を 14 分 37 秒台で通過し、記録への期待も高まりましたが、後半は単独走を余儀なくされ、ペースの落ち込みもあり 30 分 23 秒台でのゴールとなりました。



終盤は共に苦しい走りとなったが積極的な走りをした小林と坪井

翌日の 5000m 1 組目には渡辺、関口、田中、2 組目には親崎と坪井が出場しました。

田中は日差しが差し込む蒸し暑さを感じる中でのレースとなりましたが、1 組目を走った田中はスタート直後から先頭集団を引っ張り、勢いのある走りを見せたものの、1000m 過ぎから徐々に遅れる展開となり、先頭集団の後方でレースの流れにうまく乗って走っていた関口も 3000m 以降はペースを落とし、田中と同様に集団から遅れる展開となりました。結果として関口が 15 分 2 秒台、田中が 15 分 8 秒台でのゴールとなり、故障から復帰明けの渡辺は序盤からレースの流れに乗れず 16 分 8 秒台でのゴールとなりました。



レースの中盤以降は苦しい走りとなった関口と田中



故障明けのレースで課題が浮き彫りになった渡辺

2組目に出場した親崎と坪井は、ハイペースで進む先頭集団の中盤から後方に位置してレースを進めました。昨日の10000mとの連戦になる坪井は、1000m以降は集団から離れて単独走となったものの、単独走の中でもしっかりとラップを刻み、レースを進めました。

親崎は 2000m 以降、先頭集団がばらけ始めると、集団からは少し距離を空けて走りましたが、リズムの良いピッチでペースの落ち込みを最低限に留め 14 分 36 秒台でのゴール、坪井もラスト 1000m で前方から落ちてくる選手を次々と抜き去り 14 分 44 秒台でのゴールとなりました。



レース中盤以降も、粘り強い走りを見せる親崎と坪井

## 【総括】

今回はチームとしてシーズン前半の目標レースとして出場しましたが、5000m、10000mの長距離レースでは、秋の駅伝シーズンで競合する強化実業団チームとは、力の差を痛感する結果となりました。

今のままでは昨年度と同様に東日本実業団駅伝に出場しただけで終わってしまう危機感が募りますので、あらためて現状のチームの状況を見直し、一人ひとりが責任感を持って日々の練習に取り組んで参ります。

また 1500m で日本選手権を控える小林は入賞こそ出来ませんでしたが、2週間前の木南記念からはコンディションを上げてきており、残りの日数は少なくなりましたが、日本選手権本番では、目標に掲げている「決勝進出」を達成して欲しいと思います。

今後とも皆様の温かいご声援をお願い致します。